

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>○落ち着いた環境の中で、子どもたちが「感動、わくわく、いきいき」と学習活動に取り組む学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかる喜びを味わうことを通して、子どもたちが進んで考えたり、表現したりできるようにします。 ・自分や身の回りの人人を大切に過ごせるようにします。 ・学校医と連携し、児童が主体的に、健やかな体をつくれるようにします。 ・児童一人一人が公德心や豊かな人権感覚をもてるように組織的に支援します。 ・地域環境を生かした教育活動を充実させ、児童がまちのよさに気づき、進んでかかわるようにします。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
確かな学力		横浜市学力学習状況調査の結果を踏まえ、基礎基本の確実な定着、問題解決力の向上を目指し、児童が学ぶ喜びを味わえるようにする。	① 横浜市学力・学習状況調査の結果を踏まえ、学力向上委員会学校全体の課題を設定する。その課題を達成するために、各学年で手立てを考えスキルタイムや授業に生かし、学力向上を図る。 ② 学習の環境を整え、ノート指導や発言の仕方を指導することで、学習へ向かう姿勢を育てる。
担当	学力向上		

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

横浜市学力状況調査では、学力層Dの児童がCに上がり、Bの児童がAに上がったため、学力が底上げされる結果となった。また、市の平均との比較では、基礎基本の学力より、活用する力が相対的に高い傾向があった。学年別の昨年度との比較では、基礎基本・活用の学力が伸びたり、維持したりした学年は、生活意識も上がっていた。特に、「授業で

はノートを丁寧に工夫して書いていますか」「授業では、自分の意見を発表していますか」「学校のきまりを守っていますか」「横浜の時間で学ぶことが好きですか」という設問に「そう思う」と答える児童が昨年度より多くなっていた。これらの授業への参画意識や規範意識は学習への意欲にもつながっていて、生活意識が高いほど学習意識も高くなり、学力も上がったものと思われる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：全学年で「読む」「知識・理解」が市平均を下回っている。文章から、登場人物の心情を読み取る力を上げることが課題である。
- 算数科：数学的な考え方は、全学年を通してよい結果がでていますが、どの学年も「知識」「技能」の能力が低い。
- 社会科：思考判断表現力が低い傾向にある。
- 理科：知識理解が低い傾向にある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

昨年度は子どもたちが主体的に取り組むための手立てとして、学習環境の改善に力を入れ、ノート指導や発言の仕方の指導に当たった。その結果として、「授業ではノートを工夫して書いていますか」「授業では、自分の考えを発表していますか」という生活意識の設問に、「書いている」「よくしている」と答える児童が昨年度よりも増加した。しかし、「どちらかと言えばしていない」「していない」と答える児童の数も増え、二極化する結果となった。また、達成感を感じることができている児童の割合が大幅に下がっている。学力面をみると、昨年度と違い、基礎基本の力より、活用する力の方が高い結果となった。そのことから、基礎基本の学力が下がったのは、生活意識の低い児童が増えたためと考える。今年度は、子どもの「分かった」「できた」という達成感を大切に、児童の主体的に学ぶ態度を育てる。また、学年研での教材研究の時間を充実させ、授業での子どもの達成感につなげていく。

3 平成 30 年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 「もっとやりたい」という気持ちをもって主体的に学習に取り組めるように子どもの思いを大切にする。
- 文字や数、言語などについて、日常生活の中で学習と繋げるなど、五感や具体物を使って実感を伴った授業をする。

2 学年

- 主体的に取り組むために、ノートや発言等のアウトプットの機会を意図的に増やす。
- 朝のスキルタイムを活用し、授業の復習を行ったり、テストの点数の向上を目指す目標を掲げたりすることで、それに向けて基礎的基本的な知識理解の定着を図る。

3 学年

- 社会や理科の学習において、子どもたち自身が課題をもち、学習計画を立て、探究的な学習を進めていけるような授業の展開を図る。
- 前時→本時→次時のつながりを子どもが意識できるような投げかけを意図的にする。
- 基礎基本をスキルタイムや家庭学習を活用して補っていく。

4 学年

- 学習したことが身近な生活とどのようにつながっているか意識できるような授業構成にする。
- 体験的な学習を多く取り入れ、知識の定着を図る。

5 学年

- 個の関わりを増やし、細かくフィードバックすることで主体的に取り組む態度を育てる。
- 知識として取り入れたものを使っていく場所を増やす。
- 授業で行っていた定着の時間をスキルタイムに行い、授業内で一人一人と関わる時間を増やす。

6 学年

- 主体的に取り組むことに必要感をもたせるために、学習課題を身近な学習問題にする。
- 段階的な指導の中で、イメージしやすい教材や教具を用意したり、「なぜやるのか」をしっかりと説明したりする。

個別支援学級

- 主体的に取り組むために、学習のめあてをしっかりと確認し、見通しを持たせられるようにする。
(この学習をするとこんなことができるようになる)
- 同じ内容でも取り組み方を変えながら繰り返すようにする。スモールステップを意識させる。
- スキルタイムでは、自分一人のできる課題(既習)を繰り返せるようにする。